公開・非公開の別	■　公　開　□部分公開 □　非公開

令和２年度第３回(第 36 期)浜松市社会教育委員会会議録

１　開 催 日 時　　令和３年３月 17 日（水）午前 10 時～午前 11 時 30 分

２　開 催 場 所　　浜松市役所本館８階　第３委員会室

３　出 席 状 況　　委　員　　伊藤豪委員、晝馬るみ委員、河合亮子委員、
近藤潤子委員、島埜内恵委員、鈴木一夫委員、
高木一徳委員、中村朋子委員、屋名池倫子委員
事務局　　平田生涯学習担当課長、大橋主任、遠部指導主事、
井ノ口指導主事
欠席委員　　松本孝久委員

４　傍　聴　者　　３人（一般：１人、記者：２人）

５　議 事 内 容　　１　令和２年度事業実績と令和３年度事業計画について
（１）浜松市と大学との連携事業
（２）令和３年度生涯学習人財育成事業
２　表彰報告
３　令和３年度社会教育団体の補助金について

６　会議録作成者　　創造都市・文化振興課生涯学習推進グループ
遠部佳代子、今井千晶

７　記 録 の 方 法　　発言者の要点記録
録音の有無　　無

８　会 議 記 録

１　開会
２　議事
（１）令和２年度事業実績と令和３年度事業計画について
①浜松市と大学との連携事業について
■事務局から、資料１に基づき、浜松市と大学の連携事業について報告
■意見・感想、質疑応答
（伊藤豪委員長）
初めてのオンライン成果報告会は至らないところもあったが、良い報告会だった。忌憚

のないご意見を伺いたい。
（屋名池倫子委員）
　ズームで自宅から参加した。他の団体でズームのホストを務めているので、この報告会の準備の大変さがよくわかる。その上でも、今回の報告会はうまくいったと感じた。コロナ禍で学生たちが交流を求めているのが伝わってきたので、今後どのように交流につなげていくかが課題であると感じた。当日、意見を社会教育委員だけでなく、生涯学習施設等職員の方からも聞けると良かったと思う。
（畫馬るみ副委員長）
　ズームで参加した。感染を恐れて中止するのではなく、工夫し、前へ進んでいくという姿勢で成果報告会を開催できたことが非常に良かったと思う。本当は一堂に会して交流できるのが一番いいとは思うが、ズームであっても同じ時間を共有できるとても良い実践だった。どの大学も資料を分かりやすく工夫されていた。大学生の発信する力を感じ、若い人の力を感じ、今後の活躍に期待できる会であった。もう少し、情報交換の時間が持てたらよかったと思う。
（鈴木一夫委員）
　ズームは初めてだったが、興味深く聞かせていただいた。学生が社会に係わる良い機会を浜松市として提供できたことが嬉しかった。学生にも良い経験、思い出になったと思う。
（島埜内恵委員）
　学生の緊張が伝わってきた。オンラインなので、学生がより緊張したのではないか。アンケートには厳しい意見もあるが、回線が途切れたり、うまく資料展開ができなかったりすることは、起こり得ることで、時間とお金をかければ解決できることが多い。だから、今の環境でできる範囲のことをやっていけば良い。発表をよりよくするには、大学の協力を得て大学の環境を借りて発信していく等、配信の環境を工夫していくことは必要である。しかし、配信の仕方より講座運営にさらに力を入れていくことの方が大切であると考える。学生に貴重な体験をさせていただいた市に感謝申し上げる。
（伊藤豪委員長）
　大学生が今の行き詰った社会を打開してくれるのではないか、そんな大きな力をこの成果報告会を通して感じることができた。今回のような機会を通し、自分たちはやればできるのだという気持ちを持ってほしい。
（事務局）
　今年度は、新型コロナウイルスの影響で大学連携事業自体を開催できないのではないかと思っていたが、中止するのではなく、実現する方法を市、大学、講座開催施設でそれぞれが考えて実施をすることができた。成果報告会直前には、学生が大学に立ち入ることも難しく、成果報告会の開催も危ぶまれた。しかし、講座も成果報告会も中止するのではなく、実現する方向で様々なアイデアを出し、工夫して開催することができた。今回の経験を踏まえ、来年度以降も成果報告会についてはオンライン開催を考えて行きたい。

②令和３年度生涯学習人財育成事業について
■事務局から、資料２に基づき、令和３年度生涯学習人財育成事業について説明
■意見・感想、質疑応答
（畫馬るみ副委員長）
　講師登録している人の中で、活躍していない人への働きかけは何かしているか。
（事務局）
　今年度、生涯学習講師登録名簿を見直した。現在登録している講師は、やる意志のある人ばかりである。登録している講師に、生涯学習講師養成講座を案内し、受講してもらう。

そして、今後は講師として活躍できるように支援をしていく。また、生涯学習講師養成講座の際には、協働センター等生涯学習施設職員から、直接講師に声を掛け、講師として活動できる機会を提供できるようにしていく予定である。
（河合亮子委員）
人気のある講師と人気のない講師がいて、人気のある講師にどうしても講師依頼が集中してしまうと聞いた。対策は考えているか。
（事務局）
人気のある講師たちが高齢化しているという問題もあるので、それも含め、若い世代、新しい講師の育成に努めていきたい。
（高木一徳委員）
この講師名簿は、どこまで公開されるのか。学校や地域でも利用できるのでは。講師謝礼、交通費等についても聞きたい。
（事務局）
生涯学習講師登録データは、浜松市の協働センター等生涯学習施設職員のみが閲覧可能である。その際には、パスワードの入力も求められ、特定の職員しか閲覧できないようになっている。一般の人は見ることができないが、協働センター等生涯学習施設にお問い合わせいただけば、職員から紹介することができる。その際には、必ず講師へ事前に連絡し、情報を伝えてよいかの確認をした上で、ご紹介することとしている。
また、学校からの依頼があることも想定し、学校で活動できるかを確認しており、登録データからもその旨、確認ができる。浜松市の生涯学習施設における講座の講師謝礼は一律に決められた額となるが、学校や地域団体等で活動する場合は、依頼者の意向によるものとしている。
（高木一徳委員）
生涯学習講師名簿の窓口が協働センター等にあることを学校に周知してほしい。総合的な学習の講師等に利用できると思う。
（事務局）
学校職員が最寄りの協働センター等に相談することで、紹介できるようにしていく。運用が始まったら各学校にも周知していきたい。生涯学習ボランティアは、市民の多様化に考慮し、新たに始めたい方も気軽に参加できるように工夫していきたい。
（鈴木一夫委員）
協働センターは、中学校区にある。そうすると協働センターから遠いところに住んでいる高齢者の中には、なかなか利用できない人もいる。「誰かが企画してくれたら、もっと活動に参加するのに」と、地域活動団体に所属する高齢者の声を聞く。協働センター以外でも、講座等が開けると良い。
（事務局）
今回の生涯学習講師登録データは、講師の活動地域や居住地域で講師を検索できるように作成した。地域活動団体等でも活動可能な講師を紹介できるので、ぜひ活用して欲しい。
（伊藤豪委員長）
私は、現在小学校の学校運営協議会に係わっている。その中でこのような人材の活用も出てくると思うので、どんどん活用していきたい。

（２）表彰報告
■事務局より、資料３に基づき、優良公民館文部科学大臣表彰、「障害者の生涯学習支

援活動」に係わる文部科学大臣表彰、優良公民館等静岡県教育長表彰、子供を育む地域活動団体県教育長表彰について報告

■富塚協働センター職員の野嶋主任より事例発表

■意見・感想、質疑応答

（伊藤豪委員長）

とても素晴らしい実践に感動した。若い人が動きだすと周りが抵抗なく動ける。もともと富塚地区は、自治会ぐるみの活動が盛んであったが、野嶋さんが加わることでより良い活動ができている。

（中村朋子委員）

本当に素晴らしい活動で、こういう所に住んでいたら楽しくなりそう。野嶋さんには、外に出ていく姿勢、人を知り人の声に耳を傾ける姿勢があり、それを事業に結び付けていることが素晴らしいと思う。団体同士のコラボをすることで、活動成果が２倍ではなく、もっと大きな成果になっている。現在、自分が活動している団体でも、民生委員と行政がコラボして、もっと支援が必要な人に対して有益な防災訓練ができるよう活動している。富塚地区のような素晴らしい活動をもっと、広報するとよいと思う。

（高木一徳委員）

コミュニティー担当職員は、地域の生涯学習の推進がメインの仕事と考えてよいか。

（野嶋主任）

地域づくりが、メインの仕事である。地域の魅力を発信している。

（高木一徳委員）

地域のやりたい気持ちをフォローしているのがとても良いと思った。今は、各協働センター等の職員はどういう立場で仕事しているのか。

（野嶋主任）

全ての協働センター等にコミュニティー担当職員がいる。各協働センターで、様々な取り組みをしている。

（伊藤豪委員長）

縛られていてはなかなか活動できないので、自由に動けることが必要だと思う。

（事務局）

各協働センターに、コミュニティー担当職員がいる。そして各区にエリアマネージャーがいる。地域差があるので、活動も異なる。地域とつながって、担当者が代わっても同じように活動できるようにしていくことが課題である。以前は退職した職員がコミュニティー担当職員として活動していたが、若手の職員にシフトしてきた結果、やっと成果が出て来ている。各地区にそれぞれ地域の課題があるが、どの職員にも課題を意識してほしいと思っている。

（伊藤豪委員長）

若い時に、地域と直接接する部署で働くことは、職員を育てる上で大事だと思う。

（近藤潤子委員）

生涯学習ボランティア等、参考になることが多かった。自分の住んでいる地域でもボランティア委員会を立ち上げる話が出ている。その際も人材の発掘は課題である。コロナ禍だからこそ、知恵を出し合っていきたい。今後は協働センターとも連携していきたいと思う。

（伊藤豪委員長）

協働センターで講座が開催されていても、遠くて行けない人がいる。あおぞら協働セン

ターは、そのような人たちにとっても良いと思った。協働センターの活動が外に出ていくことは、活動を広げる良い方法だと思う。地域にある公会堂等を利用するのもいいかもしれない。

（高木一徳委員）

あおぞら協働センターは、天気に左右されるが、雨の時の対策はしているか。

（野嶋主任）

ＳＮＳで最新の状況をお知らせしながら、開催している。実際に雨が降った時は、講座室で行った。

（屋名池倫子委員）

あおぞら協働センターの周知はどの様にしているか。

（野嶋主任）

協働センターだよりの他、小・中学校へのチラシ配付をお願いしている。その他、インスタグラムで情報発信をしている。

（河合亮子委員）

参加者の世代構成はどうなっているか。

（野嶋主任）

企画によって違うが、子供が多い。高齢者も来てくれている。あおぞら協働センターでの出会いから新たな活動も始まっている。

（伊藤豪委員長）

手作りのおもちゃを作れる高齢者も多くいる。ボランティアで手作りおもちゃの講座を開催したことがあるが、大盛況だった。多くの高齢者に、自分も地域の役に立つことを感じてもらいたい。地域の人を巻き込んでいけると良い。

（３）令和３年度社会教育団体の補助金

■事務局から、資料４に基づき社会教育団体の補助金について説明

■意見、質疑応答

（河合亮子委員）

交付先の団体数はどれくらいですか。

（事務局）

子供会連合会 336 団体、ボーイスカウト 14 団体、ガールスカウト 12 団体である。

（伊藤豪委員長）

それでは、社会教育団体への交付補助金について承認させていただく。

６　連絡事項

■事務局から以下の内容について連絡

・令和３年度指定都市社会教育委員連絡協議会【連絡資料】

・次回開催予定

令和３年６月頃

７　閉会